

「ソフォニスバ」(又は、打倒されたハンニバル)(三幕)

ナサニエル・リー 著
千 葉 孝 夫 訳

三幕一場

ローマ軍の陣営。

スキピオ、レーリウス、従者達、ヴァットロ、及び護衛兵達、登場。

スキピオ 我方が、キルタ⁽²⁾から、如何な知らせも聞けぬとは、面妖なことだな。

彼処から、一人の兵士も、戻つて来てはいないのか？

レーリ 兵士は、未だ一人も、姿が見えませぬ。

スキピオ 我が騎兵を伴つて、誰か軍団指揮官に出かけさせ、マシニツサ王の意向を探るのが、妥当だな。

5

ロザリнда、及び、マツシーナ、登場。

ロザリ 將軍は、一体何処においてなの？ 貴方の威厳と、

堂々たる衣裳から見ても、貴方が、執政官に違いありませんわね。

もしも、そうだったなら、私は、貴方に命令します。この私を釈放

しなさい、とね。

スキピオ 貴女の嚴命は、執政官たるこの私が、それに従うべきか、

否か、途惑うような調子で、下されましたな。

又、私は、存じあげもせませんが、麗しの人よ、貴女が、何者で、

何方の家系に属されるのか、

不当にも拘束されたものか、戦で捕囚になられたものなのか、をも

ね。

ロザリ それが、正しかろうと、間違つていようと、私のような美貌

の持主が嘆願したとあらば、

早速にも、私の釈放をお言いつけになるのが、妥当なことですわ。

私の意志に反して、私を此処に拘留しておくのは、不法不当なこと

ですわ、

何しろ、この私は、あのハンニバル大王の縁戚者なのですからね。

15

10

とどのつまり、我々は、この新しい恋の喜びをば、試してみようではないか。

マツシ ええ、試してご覧になったら宜しいですが、如何しても、私みたいに、ご満足にはなれずまい。

貴方は、依然として、戦勝を博することや、皆を急襲したり、深い塹壕を掘ったり、

部下達に武装を命じたり、貴方の愛人の眠りを妨げることを夢見たりなさるでしょうかね。

ロザリ 危険にも、ご自分の恋を玩ばれるのは、後のことにして下さい、

何しろ、よいですか、この私は、貴方方お二人を、同じ位蔑みの気持ちで眺めているですからね。

おお、偉大なハンニバルよ！ 何処から何処迄も、素晴らしい貴方、誠実な私のこの心は、決して、貴方以外の誰のものにもなりはしませんからね。

貴方と較べれば、この人達は、何と卑小なのか？ 何と低劣なのでしょう？

スキピ 彼のと同じ位、大した戦利品と、戦勝とを、我々は、お見せ出来ませぬ。

高名噴々たる彼の武功をば、飾り立てるもののように見事で、同じ位恐ろしい危険から、勝利の女神が挽き取ったようなやつですね。

ロザリ 成る程、確かに、貴方は、ある程度の栄光を、スペインでかち得られ、

カルタゲーナを、奇襲によって、占領されたのですね。

貴方が、最近博された戦勝について申せば、それは、拙い企みで、

65

だけど、貴方は、ローマの名声について、声高に語っておられたものですわね、

貴方の驚達、揃って、鳩宛らに、あれ程温和しく飛んでいた時にもね。

だけど、ハンニバルは、賑々しく戦場へと赴き、比類ないその行動を見た全世界の人々を、はっと驚かせているのです。

彼は、何がなし、反転しながら泳いでいる鯨宛らで、それは、水に漬かりながら、

キラ／＼光るその甲冑で、波間を金色に輝かせているのです。ぎよつと怯えた敵を、さつと自分の傍から追い払い、

泡を吹いている、蒼白い暴れ者達に、自分から遙か遠くを泳がせ、水の領域を、隅から隅迄も支配し、

75

大洋の領主で、陸地の専制君主として君臨するのですが、

一方、貴方の従順な地域（の住民達）は、幼魚宛らに、音も立てずに、すーつと滑り行き、唯チラ／＼と見え隠れするだけなのですわ。

スキピ 彼女をな、マツシーナ、彼女をば、私の幕舎から連れ出してくれ、

80

解放して、自由にするなど、鉄鎖に縛すなど、死罪に処するなど、追放するなど、するがよい。

私が、もうこれ以上決して、彼女に会わずとも済むような所へ、何処へなりと、彼女を連れて行つてくれ。（マツシーナ、彼女を連れ去る）

彼女は、行つてしまった。さあ、これで、私は、今迄通りになれるな。

喘いでいる我が心は、栄光を渴望して、燃え立っているのだ。

70

既に名声は飛び去って行ってしまい、手招きしている運命女神は、
思いを馳せているのだ、

85

兜の顎当や、丸楯、剣や、ずっしりした大楯、
それに、空想が生み出すのが常である、ありとあらゆる物、
黒々とした山々、戦塵に塗れた平原、流血の戦場といった物にね。

マハーバル、登場。

あんたは、一体何者だな？ かく申すこの私は、執政官なのだぞ。

マハー ハンニバル様の許から、貴方をおもてなし致すべく、手前
は、参上致しました、

90

運命女神が、ぎよつと怯えた世界をば、半分迄も打負かしてしまわ
ぬうちにですな。

彼への間諜として、貴方が任命された閣下は、

あの方は、それ故に、貴方に感謝しているのです。しかし、己が剣
を手にして、

未だ嘗て、ローマと交渉（談判）したい、と願ったことのない、そ
の人物が、

95

（戦が、恐ろしい結末を迎えたからには、）
地球の命運について、貴方と談合を行いたい、と思っているのでは
あります。

スキピ 了承しましたぞ。して、その場所は、一体何処になりますか
な？

マーハ ザーマの平原であります、

僅か、兵士五百名宛を伴いましてね。

夜が、明け初めて、朝焼けで、空が、紅く染まるや否やですぞ。

恐るべき貴国の軍勢をば、其処にて、お待ち致しておりますからな。

100

（退場）

スキピ それを実行したいものだな、一大決心をしたからにはな。

我がローマは、栄冠を頂き、大カルタゴは、戦塵を浴びて、一敗地
に塗れることになるのだな。

トレベリウス、登場。

トレベ 月桂冠、及び、戦勝が齎してくれる、ありとあらゆる記念物
を、

戦場で、敵に血を流させて買い取った、軍旗や軍団旗をば、

威厳ある己が主君で、勇猛なその友人味方でもある

スキピオ閣下に、マシニッサ王は、お贈り致しますぞ。

105

スキピ 手短かに、彼が闘った戦の経過について、語ってくれ。

トレベ シファックス王は、我が軍の恐るべき雄叫びを聞きつけるや

否や、
偵察させようと、何名かの騎兵隊を派遣しましたが、
その一隊は、同じ人数の我が軍によって、潰走させられたのであり
ます。

110

絶望感、及び、その美貌が、彼の生に対して、重大な
影響を及ぼしていた、魅力的な彼の妻に急ぎたてられて、

闘いに覺をつけるべく、彼が、自ら、出て来たのです。
我が軍も、戦闘に加わり、激烈な闘いが行なわれ、

遂に、我が軍は、窮地に追い込まれたのですが、

その時、並の人間を遙かに凌ぐ、マシニッサ王が現われ、
溢れるばかりの、その剛勇を揮って、

我が軍の兵士達が、始めのうち懼れていた、あのどえらいハンディ
キャップをば、見事に撥ね除けたのであります。

115

スキピ 何か驚くべき、堅忍不拔の所業が行なわれたのだ、

それは、半ば敗北しかけていた軍勢をば、再び落ち着かせられる程のものだったのだな。

120

トレベ 我が軍の將軍が、何方へ向こうとも、死神が、その様子に注目して、

彼を見つけたとなると、その冷やかな矢で射抜いたのです。

何か炎々と燃え広がる炎宛らに、赫々たる栄光を博しつつ、彼は、
進み行き、

125

彼の周りの到る所は、荒涼たる廢墟となつていたのであります。
その名を天へと届く程迄も、彼が反響させた、シファックス王をば、
訝する歓声を挙げて、遂に彼は見つけたのであります、
部下の護衛兵達にぐるり取囲まれながらも、ふる／＼震えていると
ころをね。

復讐心の持主が、突進出来る限り素早く、彼は、シファックス目が

けて跳びかかり、
その腕力を揮つて、王をその乗馬から引き摺り下ろし、
敵味方両軍が見守っている中で、王の心の臓を刺し貫いたのであり

130

ます。
それを目撃するや、敵軍の兵士達は、一斉に潰走したのです、
恰も、ありとあらゆる希望が、自分達の君主と共に、潰れてしまつ

たかのようにですな。
スキピ キルタが、それ程酷い損失を蒙つてしまつたからには、やが

て、
戦勝者の恐るべき武力（軍勢）に降伏するに違いないな。
トレベ そうなりましたぞ、閣下。今や、マシニッサ王には、
謹厳至極な貴族達も、欣然と臣従の礼を尽くして、お辞儀している

135

のであります。

其処では、手前が、真つ先駆けて、馬を進めておりました時、
お妃様が、勝者の花嫁になればよいのだ、と望まれていましたから
な。

スキピ むしろ、あんたが、戦勝を博したのを自慢出来ず、

又、王が、あの戦闘で、喪われた方がよかつたのに、と私は思うな。
キルタへと、レリーウスよ、早速赴き、

140

あの油断のならぬ妃をば、我が方の捕囚にしてくれ。

もしも、マシニッサが、あんたに反対するようなことがあつたなら、
言つてやるがよい、

それは、私の命令であり、その私が、必ずあんたを従わせてやる、
と断言したのだ、とな。（一同、退場）

145

ハンニバル、マハーバル、及び、ボミルカー登場。

ハンニ 愛するロザリンドが、解放されて、自由になり、我が暮舎に
来ている、というのだな？

しかし、一体何故、あの見知らぬ男が、彼女と共に送られて来たの
かな？

あんたは、私の心中に、嵐を惹き起させたな。
なあ、言つてくれ、あの若者は、あんなに眉目秀麗で、彼女は、そ

れ程優しかったのかな？

ボミル 貴方が愛しておられるロザリンド様の美貌は、真昼宛らに、
けざやかに見えましたぞ、すっかり骨身に沁みる程見目麗しく、キ

150

ビ／＼と晴れやかでしたな。

ですが、彼女を案内してきたあの男は、とても若々しく、夢中に
なっているように見えました、

丸で、あの惻隱の情が、恋心を手渡した（催させた）かのようにね。

して、(彼の目に泛かんだ) 涙が、紅く染まったその顔をば、大いに飾りたてていたので、

日輪が、暁に先導されて、やって来た、という按配でしたな。

ハンニ 私が開きたくもない、そんな讃辞を並べたてるのは止すがい。彼女は、一体何と言ったのだ？

ボミル 其処で、貴方がお出でになるのを、お待ちしたい、ということですな。

私は、お辞儀をして、行きかけましたが、好奇心が起つたこととて、暫しの間、身を屈めて、見知らぬ、秀麗なその若者に注目しておりました。

すると、その時、思い悩んで、頼み込むような調子で、彼女が言ったのです、

「それが、貴方の敬愛の現われなの？ お前は、私に服従したくはない、つていうの？

お退がり、お退がりなさい。もしも、ハンニバル様がお出でになつたなら、

この場の様子をご覧になつただけでも、間違いなく、死罪が宣告されましょう」とね。

ハンニ 黙れ、死の先触れよ、不吉な渡り鴉と同居し、深夜、死にかけている者に、お前の話を物語つてやるがよい。

おお！ それは、毒矢宛らに、私の軀を刺し貫いたが、それは、次第に、血液や、心の臓をば、病毒に感染させてゆき、

今や、もつと高くへ昇つて、私の頭を分裂させ、其処で、悪疫宛らに、いとも酷いその毒が拡がり、

私の脳味噌は、一万もの様々な激痛をば、代わる代わる味わうのだ、今、悪感が私をぞつとさせたかと思うと、今度は、熱が私の軀を燃

え上がらせるのだな。

170

165

160

155

おお、ロザリンド！ 不実な、恩知らずの乙女よ！

この私は、栄光を喪つたが故に、こんな返報を受けることになるのか？

だが、この場を立去つて、私の幕舎へと案内してくれ。私の希望の全てを、洗い潔い奪い去つた彼奴には、必ず血を流させてやるぞ。(一同、退場)

ロザリンド、及び、マッシーナ、登場。

ロザリ 一体何故、貴方は、此処に留つたの？ もしも、貴方が、今

迄人を愛したことがあるものなら、どうか 貴方にお願ひさせて下さい。この場所から立ち去るよう

に、とね。
マッシ この私にお許し下さいますよう、貴女の召使いとして、此処

に留まり、署名の上、生涯に亙つて、お傍近くでお仕えさせて頂きまことを

ね。
先刻のお話について申せば、そう迄しなければならぬものでしょ

うかな？
ロザリ それは、出来ないことだし、そうしてはならないのです、

貴方が、私の傍で、のらくらと時間を過すなんてことはね。
貴方は、昼間現われる、金色燦然たるあの遊星(太陽)宛らに、

文句なしに、華々しく昇るように、正に、きらびやかに沈むべきな

のですわ。
寛大な惻隱の情が、私の心を抑えつけ、
それは、今や、貴方に永劫の別れを告げているのですからね。

マッシ 「貴女の蔑み」と仰有つて下さい——ああ！ 一体如何して、

185

180

175

私が別れられましょうか？

思うに、私は、丸で、当然の人情をも持ち合わせてはいないかのよ
うに、（冷酷な心で、）立ち去ることになりそうですな。

ですが、そうならなければならぬ、と貴女が決心していらつしやる
からには、

何処かサラ／＼と流れる小川の岸辺に、私は、この身を横たえる心
算ですぞ。

その小川の水が、もしも、余りにも浅くて、チョロ／＼と流れてい
るだけだとしたらなら、

私がしとどに流す泪が、その川を増水させて、この私が、溺れ死ん
でしまう程にもなりましょうぞ。

ハンニバル、ボミルカー、及び、アスペル、登場。

ロザリ マッシーナ、お待ちなさい。是が非でも生きてるように、
と貴方に厳命しますわ。

ハンニ 天も地も、刑の執行猶予をば、彼に許可することは出来ぬぞ、
何しろ、このハンニバルが、彼を生かしてはおかぬ、と誓ったのだ
からな。

ボミルカー、彼を縛るがいい、直ちに縛り上げるのだ、
不実なロザリンドよ！——彼を私の目には入らぬ所へと連れて行く
のだ、

して、彼の眉目秀麗さをば、永劫の夜の闇で匿してしまふがいい。
我々が、拳句の果てに再会したのは、結局、この為だったのか？

あんたは、依然として、ローマの執政官の捕囚になっていたか、
と思っていたのか？

ロザリ おお、ハンニバル様！ 貴方は、私が泣いている泪に逆らえ

200

ますの？

激しいご気性の貴方に訪れたのは、一体如何な変化でしょうか？
彼を死なせてはいけません、ボミルカー、アスペルよ、お待ちなさ
い。

貴方に命令しているのは、この私なのよ。貴方は、敢て私に従
わないでいられるの？

ハンニ 連れて行くがいい、彼女の嘆願に耳を傾ける者は、死罪に処
するぞ。

彼の手錠を引抜き、手枷を着けさせるのだ。
足枷も着けてやり、彼の柔らかく、すべすべした皮膚を擦り剥かせ
てやるがいい。

これは、あんな怪しからぬ罪を犯した者には、余りにも軽過ぎる刑
罰だわな。（マッシーナ、連れ去られる）

ロザリ もしも、このロザリンドが、残酷ではあるけれど、名だたる、
貴方のそのお心の中に入り込める余地をば、未だ少しでも残してい
るものなら、

あの見知らぬ人を、早速釈放して下さいよう、求めますわ、
すれば、貴方は、今後ずっと、私を自由に出来る君主の儘でいらつ
しゃれることになりますからな。

ハンニ 一体如何して、あんたは、敢て彼の為に嘆願出来るのか、不
実者のあんたがな？

あんたが、美貌であるよりも、もしも、そんなことがありうるとす
れば、それにもまして、不実なのだ。
彼の為には、如何な執り成しもせぬがよい。

彼が受ける責め苦は、あんたの所為で、その二倍にもしてやるから
な。

ロザリ 今後、清浄潔白なのに、不法不当な仕打ちを受けた者は、宮

215

210

205

廷から引き退るがいい、
 こよなく優しい、類稀な程偉大な人物に相應しい伴侶であるお前、
 こう迄も欺かれたからには、ああ！ もうこれ以上、彼を訪ねたり
 はせず、

何処か羊飼いの小屋に出かけて、悲嘆にくれる自分の心を慰めた方
 がいいわ。

ハンニ おお、罪業意識（の持主）よ！ お前は、あれ程の優しさを
 あの若者に見せた清浄潔白な者に働きかけることが出来るのか？

ロザリ もしも惻隠の情が優しさなのだったなら、この私は、とても
 優しかったのですわ、

何しろ、私は、情の脆さを悉く、彼への悲嘆に委ねてしまったので
 すからね。

して、冷酷無情な心の持主以外の、一体誰が、彼が悲しみ嘆くのを、
 平然と見ていられるものでしょうか、

そんな悲嘆にくれた、それ程の優しさの持主を蔑むことは出来ると
 いうのに？

ハンニ それ程すーつ、すーつと動いて行く、あんたが抱いているよ
 うな惻隠の情は、

恋が近づいている、と知らせる先触れなのだな。
 ロザリ それは、貴方が享受しておいで、名譽面目に相應しくはあ
 りませんわ。

私の熱情は、とても激しいものなので、それを、もつと穏やかなも
 のにすることが出来ればいいのに、と思いますわ。

宜しゅうございますか、不法不当で、嫉み深く、それ故、独りよが
 りのお人よ、

何しろ、嫉妬深さは、偉大な人々の酷い弱点なのですものね。
 誠実不変の私の心も、貴方の栄光を想うと、揺れ動いたのです、

（貴方は）豪華で、威勢よく、美々しく、勇猛なお方なのですから
 ね。

私の魅力は、冷静で、穩健な、あの執政官も、沁々と感じていたの
 です、

美貌の光が、燦々と彼に降り注がれていた間はね。
 今迄長い間、彼の心を縛り、鎖ざしていた霜が、蕩け緩んで、

恋心が、陽光宛らに、彼の心を鎧つていた氷をば、すっかり溶かし
 てしまったのですからね。

ハンニ あんたの顔は、どうも、今迄とは、すっかり変った様相を帯
 びているようだな。

又、美貌のあんたが、今迄試練に遭っていた、ということも、疑う
 訳にはいかんね、

ほんのかすかに、恋をしている、という血色が、あんたの顔に泛ん
 でいるのだからな、

それは、染められることによつて、その本来の光沢を喪つてしまふ、
 あの絹布みたいなものだな。

ロザリ スキビオ様も、貴方が、残酷にも捕縛された
 あの若殿も、私のこの心に、丸つきり訴えられなかつたということ
 は、

尊い天命神慮宛らに、いとも当然にも、本当のことなのですわ。
 そして、貴方が、か弱くていらつしやるように、私は、清浄潔白な
 のですわ。

ハンニ ああ！ あれは、清浄潔白の証拠だったのだよ、「立ち去る
 がいい、

もしも、このハンニバルが調べたなら、唯それだけで、あんたは、
 死罪に処せられるからな」と私が言ったということはない。

ロザリ 憐憫同情が、（それは、恋心のなせる業なのだ、と、私は、

230

225

220

245

240

235

告白出来ませんでしたけれど、)

話すように、と、私を急ぎたてたのです。貴方がお聞きになったのは、他人から言われたことだったのですわ。

それ故、早速彼を拘禁状態から解放して、安全無事な儘、彼を執政官の手に引き渡して下さい。

愚図愚図したり、ぶつくと零したりせずに、直ちに彼を釈放することです。

さもなければ、貴方が戴く月桂冠は、もう決して緑色を帯びることはなく、

貴方の武技武力も、戦で、幸運に恵まれはせず、又、このロザリンドが、洗面以外の表情を泛べているのを、人に見られることもありませぬように！

ハンニ お待ちなさい、あんた——取り急ぎ、捕囚の王子を釈放するがいい。

海に対する岩礁、乃至は、空往く風に対する、頑強不撓な樫の木宛らに、

他人に対して、例えば、兵士の罪に対しては、苛酷な私の心も、貴女に対しては、譲歩するでしょうな、「時」というものに、屈服

せねばならぬ連中のようにね。今迄、鋼鉄の甲冑で、この身を鎧っていたが故に、硬化してしまっ

た私の気性をお赦し頂きたい。それを着用して、殆ど不死不滅の人間同然に、私は、傲然と立ち開

かっていたのだが、

遂には、恋が、私に一撃を浴びせ、その所為で、私は蹠踉めいてし

まい、
際立った女性の美貌が、甲冑を着込んだ私の軀の中を駆け抜けたのだな。

260

255

250

粗野無作法な私の心をば、お赦し頂けるかな？

ロザリ 貴方の猜疑心をお捨てなさい、すれば、私は、優しくして差し上げますわ。

マツシーナ、拘束を解かれて、登場。

ハンニ (私みたいな) こんな性急な男がすな、不法不当な扱いを

受けた王子よ、あんたの赦しを懇望出来ませんか？
マツシ いいえ、貴方、私の赦しをば、貴方は決して得られないで

しょうな、
何しろ、宜しうございますか、私は、二重の根拠で、貴方を憎悪して

おりますからな、
貴方の恋故に、大いに、暴虐な権力故に、尚更にね。

私みたいに、今迄、恥辱屈辱を味わわされてきた王侯は、
又ぞろ、あんな風に名誉を汚されたとなると、顔赧らめずにはい

られないでしょうな。
転落するがいい、死んでしまうがいい、さっさと片付けるがいい、

運命の敵意に屈服されてしまうがいい、
あなたの立派な叔父上は、今や、あんたを、(甥として) 認知して

はくれませぬぞ。
俗世から提供された命など、私は、受け取りたくはありませんな。

しかし、ロザリンドの為とあらば、私は、生きられることでしょうな。

ねえ、お話し下さい、ハンニバル様、貴方は、ご自分の分を譲り渡して下さいますか？

ロザリ 彼は、そうするかも知れないけれど、私は、自分の分を、如何しても手放すことは出来ませんわ。

275

270

265

マツシ 何と、「如何しても」ですと？

ロザリ 「如何しても」ですわ。

マツシ おお、薄情冷酷で、苛酷な心の持主よ！

恋愛神は、私を弓で射た時、間違ひなく、その矢を射損なつたか、

さもなくば、死神と交代してしまつたこととて、忽ち人を殺してしまふその矢が、

こうして、私の血を啜り飲むのですな、こんな風に、ぐいぐい、がぶぐいとね。(自刃する)

ロザリ お待ちなさい、残酷な王子よ！ 彼の手から、短剣を挽ぎ取つて下さいな。

ハンニ ああ、もう遅過ぎたな！ それを彼の胸元から引き抜いたのだがな。

ロザリ 貴方は、一体何ということをやつたの？

マツシ 私の軀は、ハンニバル殿が汚染してしまい、

病毒に犯された、あの血をば、飲み干しただけなのです。

死以下の、一体如何なものを、私は、名誉面目に捧げられるものでしょうかな？

して、等閑にされた恋が、生きてゐる勿れ、と私に命じたのです。さあ、貴女は、もう、彼を奪ひ取つて宜しいのですぞ、彼を、ご自分

分の許に、何もかもそつくりね、

残酷で、傲慢で、幸運なそのハンニバル殿をね、

ハンニ 我々の人生の業は、無意味な代物だな。

一体何故、野心満々の人間は、国王になりたい、と夢中になるのかな？

さもなくば、一体如何な目的の為に、武人は、武技武力をば必要とするのかな？ 又は、法官達は、高等法院で大騒ぎするのかな？

神々への慰みものとして、彼等は、我々を、あちらこちらへと、ぐるぐる引つ張り回すのだ、

恰も、子供達が、シャボン玉を、空中に吹き上げるようにね。

この私が、手を貸してやろうぞ！

マツシ ああ！ 私は、この軀を、貴方に触られたくはないですな、たとえ、仇敵が、側隠の情を抱くことがありうるとしましてもね。

貴方の想ひ人のロザリンドを取つ掴まえ、彼女共々豪華なベッドへと

飛んで行つて、しっかりと、彼女を抱きしめられるがよい。一方、この私は、

仄暗く、埃だらけの、私が当てがわれた土牢に横たわることになりますがな。(死ぬ)

ハンニ 不吉な物想ひという暗雲が、我が心を狼狽させておる。

彼の遺骸をば、ローマ軍の陣営へと運んで行くがよい。

靈柩馬車に載せて、肅々と進み行き、

お前達が死んでしまつたのでは、と人々が考えるかも知れぬ位、これつきりという程、悲しみに沈んだ顔付きをするがよい。(兵士達、遺骸を運んで行く)

ロザリ 私の貞淑さについて、貴方は、そんな風にお疑いだつたのですね。

嫉みそねみが因となつて、起こつた結果をご覧下さい。ああ、残酷な征服者よ、今ではもう、私も、貴方を呪うことが出来ますわ、

まずね、

貴方の月桂冠という月桂冠を悉く、貴方の頭上で枯らしてしまつて

ね。そんな(恋故の)行為を見せつけられては、恋心もうんざりしてしまふし、私の恍惚感も萎んでしまいますわ。

290

285

280

290

305

310

300

ああ、私達は、二人共、大地の底の洞穴の中に、横たえられればいいのに。

明るみを嫌って、外へ出ようとはしないような、恐ろしいものに遮られ、太陽や

星達のキラ／＼した光が、射し込むことは、決してないが、

この世の業わざという業が、何もかも終ってしまっているような所へね。(退場)

ハンニ おお、私がじっくりと考えてみて、我が心が将来如何なつて

いるものか、を見つけれればなあ!

つまり、一体如何な幸せや、不幸災いを味わうべく、私のこの人生

が目論まれているものか、知りたいものだな。それを知っていれば、思慮分別は、忠告諫言を呈してくれるやも知れぬ、

ところで、全人類の中で、常に賢明だったのは、一体誰なのか? とね。

あの大きな秘密については、神々に教えを乞うことにしよう。

して、たとえ、彼等が、私を失望させるとしても、運命女神の手で、一千もの岩の下に匿かくされているにもせよ、それを求めて、私は、そ

の下迄も測はかってみるし、

漆黒の髪の毛で縛むすって、それを引き摺り上げてやるぞ。

たとえ、それが、ゴルゴン(メドウサ)宛あつらに、身の毛もよだつ程恐ろしい形相でやつて来ようとも。

その光景にも、断固としてびくともせず、私は、我が運命を睨にらみつけて、温和しくさせてやるぞ。(退場)

325

320

315

三幕二場

キルタ市街。

マシニツサ王、及び、メナンダー、登場。喇叭隊、堂々たる行進曲を吹奏する。

マシニ 今迄、これ程すななりと、勝利が勝ち得られたことがあつた
だろうか?

我々には、この町をば、我がものとして、要求する暇さえ、殆どな
かつたな。

この町の城門は、さつさと、又、怖おそず怖おそずと開かれたのだ、
丸で、戦勝を重ねている、我が軍の剣には、魔法がかけられている
かのようにね。

メナン 陛下の王位を篡奪した、大それたシファックスは、

下界の復讐女神達の許へと出かけて行つたのです。

地獄の底の谷間には、いとも黒々とした雑草が生い茂っており、
大望野心の持主に血を流させる、棘の痛さを感じさせるのですな。

マシニ 早速宮殿へと向きを変えよう、我が軍に言いつけるのだ、
ソフォニスバが、その損失を悲しみ嘆なげいている宮殿へとね。

予は、破誓した、華々しいあの美女を訪ねることにしよう、
如何程、我々が、(その破誓に) 無関心であるか、を彼女に分らせ
てやる為にね。

メナン 彼女を振り捨ててやる、と貴方が約束なさつたというのに、
一体何故、有徳高潔な貴方が、必要もない試みをなさらねばならぬ
ことがありしようや?

10

5

恋心は、熱狂的になることは滅多にないにしても、貴方の胸内に閉じ込められ、

燃え上がる彼女の溜息に煽がれて、出口を見つけられるかも知れませんが、

せんな。

何処か、可成り密閉された場所に閉じ込められた熱気宛らに、

もしも、空気が少しでも入り込んだなら、その場所を至る所燃え上らせるのですな。

マシニ あんたは、敢て疑うことが出来るものかな？ よいか、それは、ありえぬことなのだよ。

大空、又は、翼を生やした、その遊撃兵達には、一体、自由があるものだろうか？

茫洋として、気儘な、大洋宛らで、風の如く、自由奔放であり、

大きく広がった我が心は、放埒に、ゴロ／＼と転がり行き、声を震わせるセイレスの唄声を、平然と聞くことが出来るし、

彼女の目を、物ともせずに睨み返して、私は、彼女の虚偽欺瞞をば、責めたててやろうぞ、

彼女が、無礼にも、私の美德廉潔に不法不当を働いた廉でな。

メナン 陛下は、一体、何を選めば、最も相応しいものか、をご存じですな。

手前は、謹んで、貴方が拒まれるかも知れぬことをご提案申し上げたのですがな。

マシニ 私が現在抱いておる憤りをば、私は、多分、匿しておくことは出来ぬかも知れぬ、

何しろ、彼女は、残酷な者にも、涙を流させるような言葉が話せるし、

かのキルケの手練手管や、凌辱された乙女の溜息や、幼な子の微笑み宛らの、強力な魅力を備えておるのだからな。

15

しかし、彼女が、涙にくれている所為で、という以上に、私は、憤りに駆られるあまり、盲滅法になつており、

悲しみ嘆く彼女に、自ら備わつて^{おのずか}いる、巧みな手際にも拘らず、

彼女の期待は、彼女の懼れ心をは、嗤いものにして、蔑むことだろうて。(両名、退場)

三幕三場

宮殿。

ソフォニスバ、レザムベ、及び、メルナ、登場。

ソフォ ローマと、全世界とは、この私の命をつけ狙つて、手を結んで

いるのだ。

思うに、この宮殿が我がものである限り、私は、依然として、王妃の儘なのだわ。

マシニツサが、この国の国王を打倒してしまい、勝ち誇るその軍勢が、この町を占領しているにしても、

それでも、このソフォニスバは、現在も、自由だし、これからも、自由な儘だろう、

ぎよつと肝を潰した、元老院議員達の命令布告にも拘らずね。私のこの生活が、これ程華々しく光り輝いているのを見て、彼等は、

顔赧らめることだろうし、驚宛らに鋭い自分達の目が、私の目を見て、眩んでしまふのではな

メルナ もしもこの私が、今迄、幾らかでも、貴方から有難いと思わ

30

20

25

5

れるに価していたとしたなら
この点で、その感謝の念を表わしてね、すると、あんたは、私に、
立派に尽くしてくれたことになるのよ。

ソフォ レザムベ、お前は、勇猛なこと故、

剣を打ち下ろして、カルタゴの栄光を救うのです。

一体如何程、正当公正な者、剛勇の士、賢者達は、

お前の美德廉潔を賞揚し、お前の剛勇を尊ぶことでしょう？

お前以外の一体誰が、今迄、敢て、自分の女性という性の優しさを

放棄して、

命がけの一撃で、祖国の自由をば、取り戻そうとしたことがあつた

でしょうか？

それは、あのハンニバルをも凌ぐ行為ということになりましょう。

レザム この私が、おめおめと生き長らえて、諸国王が口づけしたこ

とのある、

それ等のお手に、ローマの手枷がかけられて、拘束され、

そのお軀が、見世物の人形宛らに、飾り立てられ、

お妃様が蔑まれていた、あの征服者の戦車を優美に飾っているのを

見る位なら、

それを耐え忍ぶよりも、むしろ、善良誠実な、ありとあらゆるもの

にかけて、

私は、この短剣をば、貴女の温かい生き血に浸し、

遂には、その柄が、貴女の心の臓から流れ出る、尊い血で、湯気が

立つ程にしますわ。

ソフォ おお、いとも高潔で、勇ましい乙女よ。

もしも、お前の目で、私の心が見通せるものなら、

私が、言葉では言い表わせないことを、お前は、信じられましよう、

つまり、お前が、このソフォニスバが心中で想っているところでは、

25

如何に大事な女性なのか、がね。

お前の声は、哀れを喚ぶけれど、耳に快い楽の音みたいに、響きわ
たつたし、

瀕死の白鳥の鳴き声宛らに、それは、美しくもあり、重々しくも聞

こえたのよ。

さあ、突き刺して、雄々しくも、お前の悲壮な役割を果たすがいい。

丁度此処よ、ずぶりと力一杯、惨めなこの心の臓に、短剣を突き立

てるがよい。

レザム 死は、私達の最後の救済策ですわ、それが、最悪のものであ

るのと同様にね。

貴女が、先ず、征服者の慈悲憐憫をば、試してご覧になるのが、相

応しいことですわ。

マシニッサ王は、嘗ては、貴女を愛してくれたことがありましたわ

ね。同じ情熱が、

彼の胸内に、今尚燃え盛つてはいない、と一体誰に分かりましよ

う？

ありとあらゆる貴女の魅力を駆使して、それを吹きたて、炎々と燃

える、激しい恋の炎にして下さい。

恋心は、振り翳された剣や、ピカ／＼煌めく武器を見れば、お嗤い

種にするものですからね。

メルチ 今迄、マシニッサ王みたいに優しいお人がいた例はありませ

んでしたわ。

あの方は、生来温和穏健で、多情好色な傾向があつたのです。

又、征服されたシファックスも、死に瀕して、あれ程驅を投げ出し

て、平伏しはしなかつたのですわ、

魔法をかけられたあの王が、美貌の貴女に屈服する程にはね。

レザム 裏切りという罪を負わされた貴女は、身の証をおたてになら

40

35

30

なければいけませんわ。

罪(ある者)には、尻込みさせ、清浄潔白(な者)には、姿を現わさせるがいいのです。

私は、衣装の下に、懐剣を匿し持っている心算ですわ。たとえば、あの方が、

貴女を奴隷にする、とのご託宣を下そうとも、これが、貴女に自由を授けてくれますわ。

ソフォ 背信が、しっかりと結び合わされていた、二人の心を絶縁させられるものなら、

いとも平静穏健な氣質(の持主)も、この上なく無法狂暴な憤激へと変わるものよ。

彼は、私を不実だと思っているのよ、私は、今迄、渝ることなく、この上ない誠実さを守り続けてきたのだけれどね。

それで、彼がそう考えているからには、憤激に駆られた彼が、一体如何な行動に趨るか、分かったものではないでしょうか？

レザム あの方の軍勢の、喇叭の響きが、この宮殿に響いているのです。

此処にて、貴女の運命と、勝ち誇るあの王とを、お待ちになつて下さい。

マシニツサ王、メナンダー、及び、従者達、登場。

マシニ お妃、手前は、貴女が、最早王妃ではなく、戦における捕囚になられたのだ、とお伝えしに参つたのです。

その人が喪われたことを、多分、貴女が、悲しみ嘆いており、愛するその人を、

想い出しては、そんな風に、貴女が、泪に暮れている国王のことを

55

ば、お考えあれ、

何しろ、審判は、天国の法廷へと移つてしまい、それで、今や、私は、我が父の王位を要求しに参つたのですからな。

貴女は、今迄、戦で、不運不幸に遭つて来られたが、尤も、そう申しても、貴女の主義主張は、もつとまじな運命に相

応しかつたのですがね。

ソフォ この帝国が、欲びに溢れることに対しては、私は、貴方に、贈り物をさせて頂きますわ、

私が、今迄、それを受け取つたことがあるよりも、もつといそいとね。

以前、シファックス王が、それを私のものにしてくれたのと同様に、惜しげもなく、

マシニツサ殿に、私は、我が王冠をお譲り致しますわ。

マシニ 貴女の贈り物としては、厭ですな。それなら、王冠などという物を、私は、蔑むに違いありませんが、

私の生得権、及び、我が剛勇の賞品として、我が父ガルラの王冠をば、私は、頭上に戴き、

このキルタの町の、ありとあらゆる支配権をも、残らず揮うことにしますぞ。

ソフォ そんな悲歎の源泉を、今や、薄情冷酷さが提供しているのですわ。

マシニ シファックスは、貴女の目から(流れ出る泪という)その贈り物を受け取るのに相応しかつたのですな。

ソフォ 私が流すこの泪には、もつと相応しい原因が、一つあるのですわ。

マシニ 「もつと相応しい」ですと！ 何と、シファックスよりも(相応しい、と言われるの)ですか？ 貴女の為に、

70

65

60

彼は、恋を過大に見積もり過ぎて、名声も、帝国をも、共に犠牲にしてしまい、遂には、彼は、

貴女の為に、己が命をば、運試しとして、投げ捨てたというのに？

ソフォ もしも、私がお話ししたことが、好意的に受け取られるものならば――

だけど、惨めな者の言うことは、決して信じられはしないものだからね。

マシニ 「貴女の言葉が信じられぬ」ですと！ おお、神よ、それは、極めてはつきりとしたことなのですか？

貴女の仰有ることは、何もかも、頗る判然としているのですからな。

「貴女の言葉が信じられぬ」ですと！ 一体如何程無情冷淡な異端者でも、

貴女が口にされるご託宣をば、敢て疑うことが出来ましようや？

ソフォ 私は、たとえ、悲嘆にくれていようと、そう出来るものなら、話をする心算ですわ。

だけど、薄情冷酷な仕打ちに遭えば、屹度、この胸が張り裂けるような思いをするに違いありませんわ。

マシニ それは、ありうることですな。ですが、お妃、私が行つてしまふ前に、

貴女のお気持をお話し下さい、何しろ、私は、多忙な身なのですからな。

部下の兵士達を、私は、未だ配置してはおりませんし、我が父の王位にも、私は、

未だ就いてはいないのですからな。私は、是非とも、如何しても、出かねなければならぬのです。

メナンダー、我が方は、凱歌を奏することが出来るかな？
メナン 華々しくすな。

75

何もかも、他ならぬ貴方らしく、征服者をも凌ぐ程にすぞ。

レザム メルナ、私達は、敗れてしまつたのよ。何しろ、尊大な蔑み

の表情を泛べて、

彼は、顔を背け、彼女が悲嘆に暮れているのを見ては、北叟笑んでいるのですからね。

ソフォ 貴方は、マシニツサというお名前ではありませんの？

マシニ そうですぞ。

ソフォ 貴方は、ソフォニスバという名前をお聞きになつたことは、ごさいませんこと？

それは、平然として、貴方の酷い侮蔑を耐え忍んできた、（この私という）女の名前なのです。

マシニ おお、神かけて！

ソフォ 破壊的な心労が、昼間の時間を、残らずがつくと貪り尽くしてしまい、

退屈な一時間一時間を数えながら、夜通し寝もやらずに過ごし、権力の持主には、欲びがあるのだ、と気付いたことは、今迄一度も

なかつたような女なのすわ。

マシニ ほう！ ソフォニスバ！ そうだ、私は、彼女を良く知つていた、

あの麗しの天使をね。して、彼女が没落してこの方、ずっと彼女を愛していたのだ。

おお、ソフォニスバよ、もしも、あんたが、それが納められた、その騙という容れ物の半分程も美しい心を備えてさえたなら、

あんたは――だが、彼女を、名指して呼ぶのは、危険だな。

私の理性は、嵐宛らに激しい、我が情炎に消されてしまつた。
メナンダー、助けてくれ――

105

100

95

さもなくば、私は、思案の深淵へと沈み込んでしまい、

我が誓約も、友情も、栄光も、何もかも忘れてしまうだろうからな。

丁度、我々が、海に乗り出して行く時、陸地が、

其処に生え茂っている樹木や、(出発地点) 近くの岸辺一帯共々、

残らず後退して行くようにね。

メナン お立ち去り下さい、陛下。もしも、此処に留まっておられま

したなら、お身の破滅ということになりましようぞ。

マシニ 何と、予の方が、敗残者の許から、遁げ出さねばならぬ、と

いうのか？

メナン 未だ幾らか望みがございますぞ、彼女の名を聞くと、彼は、

身を震わせ、

今や、彼は、燃えるような眼差しで、じろくくと彼女を見ておりま

すからな。

レザム 最後のあの一瞥で、どうも、恋心が彼を射抜いたようですわ

ね。

マシニ 左様、お妃、この私は、マシニツサなのですぞ。

手前は、(貴女は、困惑なさるかも知れませぬが、ご承知おき頂き

たい)

悲歎が辺り一面に生い茂り、夜毎の不眠と、

蒼白な不幸災難とが生み出した、深く根差した心労と、

如何な有害な雑草も全て生え揃った、生きた墓穴なのです。

嘗て、私は、そんなものには無縁で、美々しく繁茂しており、

亭々と聳える大木宛らに、空中で花を咲かせていたし、

陽気快活な我が友人達は、小鳥達宛らに、私の周りで、囀り唄って

いたのです、

貴女の嘘偽りの舌という魅力には毒されずにね、

して、今にも実現しようとしている希望が、花を咲かせながら、私

125

の周りに垂れ下がっていたのです。

遂には、麗しの女人殺しよ、あんたが、雷宛らに、落つこちで、

花も、枝も、根っこも、何もかも枯らしてしまつたのですな。

ソフォ おお、マシニツサ、それを、選りに選つて、貴方から聞こう

とはね！

マシニ それは、彼から聞こうと、私から聞こうと、等しく真実なの

ですぞ、

さもなくば、此処にいる誰から聞いたにしてもね——一体何故、お

妃、それを私から聞くと、不都合なのですか？

ですが、もしも、私がこの場にいることが、迷惑になるものなら、

私は、永劫に、貴女の目の前から、姿を消してしまふ心算ですぞ。

ソフォ 待つて、マシニツサ様、待つて下さい、我が命よ、我が魂よ、

一体何故、貴方の目は、そんな不思議な具合に、ぎよろろく動いて

いるのですか？

恋をしている私の、この心を見つけた、ご自分の憤りを、貴方は、

匿していらつしやいますわね。

マシニ 人の魂の捜し手は、一体何処に棲んでおるものかな、

袋小路を通り抜けて、女性の心を発見出来るような者はね？

そら、ありとあらゆる彼の業を遮る、障壁となるものが、此処にあ

るぞ。

そんな恋こそ、真実のものなのだ、と断言しようとは思わぬ人間な

ど、一体あるものかな？

ソフォ この私が、貴方を愛してはいない、ですつて？ 神かけて、

私は、愛していますわ。

マシニ おお、猫つ破りの女よ！ 嘗ては、そんな言葉を使つても、

巧いいたたかも知れぬが、

あんたの手慣れた手練手管は、結局、洗い漂い知られてしまつたの

140

135

130

だ。
以前には、正にその通りに、彼女は話をし、又、その通りに、泪を流しました。

して、あのけぎやかで、誠実な表情を泛かべて、彼女は、誓いを立てましたのだ。

おお、神々よ！ もしも、私が、此処に留まっていたなら、又ぞろ、私は、彼女の言葉を信じてしまうだろう。

おさらばですな、こよなき悦楽の因で、この上ない苦痛の素でもある女性よ！

ソフォ 貴方へのありとあらゆる愛にかけて、それは、ありえないし、あつてはならないことなのです。

今、口になさった、残酷なそのお言葉は、まさか、この私に仰有るお心算だつた筈はありませんわね、

全身全霊を傾けて、貴方を愛しているこの私に、

ヴェスタ女神を祀る祭壇上の、不断の聖火にもまして、永劫に燃え続ける情炎に我が身を灼くこの私に、

(貴方との合一という) 唯一の願望に、身も心も捧げ尽くしているこの私にはね。

ああ、陛下、貴方への愛情は、私の光明と、健やかさの全てであり、私が貯えたいと思う財宝であり、私の唯一の富でもあるのですわ。

それを、私から取り上げないで下さいな。
マシニ それは、空しい遅滞にしか過ぎんな。

ソフォ 情ない急ぎ立て方ですわね。何故、貴方は、顔を背けなさるの？ (跪く)

貴方は、死んだ私を残して(私を殺して) 行くのでなければ、出かけられませんわ。

私は、今迄一度も、無駄に涙を流したことはないのです。

160

145

おお、お聞き下さい、私の溜息を、私の誓言を、天上の神々よ、もしも、如何な神様でも、私同様、これ迄に愛することが出来たものならばね。

貴方方の劫火を放つて、冷たく凍りついた彼の心をば、溶かし蕩かして下さい。

そして、畏れ多い恋の神よ、貴方どの矢をも試してみして下さい。貴方は、身動きしてはいけませんよ。(哭く)

マシニ それ程激昂されるとは、一体如何いのお心算なのです？
ソフォ 造化も、そんな忘恩ぶりを見ては、はつと驚くことでしょう。

こんな恥辱屈辱を蒙つた復讐をば、後世に対して遂げ、全人類を残らず、人非人ばかりにしてしまうがよいのです。

残酷不人情なお人よ！
マシニ 彼女にそうさしてはいけないのだが、しかし、彼女は、そうすることだろうな。

彼女は、がっちり和我が心を掴んでいて、嘆き叫んでおり、それを、そっくりその儘、手に入れるだろうな。

そうなのだ、彼女の目には、逆らい難い魔力が宿っていて、天使達が、私には見えるし、神々が、其処で、舞い踊っているのだ。

立つのです、お妃、お立ち上がり下さい。貴女が溜息を吐かれ、人の心を和らげるような一瞥を投げかけられる度毎に、

私が蒙つた、騒々しい不法不当は、宥められ、私は、黙り込んで、有頂天になつてしまふのですな。

メナン 彼の溜息は、物凄く激しい疾風となつて、彼の口から飛んで来るのですな、

恰も、彼の心が、彼の唇の間から吐き出されるかのようにな。ソフォ 貴方は、そう迄情なくなれますの？ 貴方の哀れな恋人に、顔を顰めてみせるなんて？

顔を顰めてみせるなんて？

175

170

165

一体如何な咎落度が、私にあったのでしょうか、ああ！ この私が、一体何をしたというのでしょうか？

マシニ いや、何も、そりやもう、別に何もありませんぞ。貴女は、唯、こうなのです、

私の命で、私の魂で、私の勇気で、血潮で、心の臓でもあり、その手で、ほんの一寸でも触られただけで、他の如何な、愛する女性の仕業にもまして、ぞく／＼して、快感を覚えるのですな。

神かけて、何と、彼女は、(男を)魅了することだろう！ 確かに、今迄、如何な女性でも、貴女みたいに、素晴らしい人はいなかったのだ。

又、私みたいに、放肆放縦だったこともなかったのですな。風は、その猛威を、私から借りているのですが、

貴女は、温和で優しく、全く無口な女性なのですな、薔薇が開く時、又は、咲いた花が散る時みたいにね。

ソフォ 貴方の心の臓の直ぐ傍に生えている、その薔薇は、色褪せて(枯れ萎れて)しまうでしょう、

貴方の手で、黄泉の国の、ひんやりと冷たい薄暗がり(死神の墓所)に植えられたならばね。

マシニ 「私の手」ですと！ 野蛮人だろうと、貴女の胸を傷つけることはないでしょうな。

その清々しい(爽やかな)枕に、ジョーヴ神も休らうことが出来たし、

不朽不滅の悦楽を味わって、永劫に幸せに恵まれてもいたのです。それ程の美貌の持主であること故、貴女は、それに加えて、誠実でもある、ということは、無い方が宜しい、

もしも、貴女が、誠実だったなら、私は、己が至福に耐えられない

180

でしょうからな。

ソフォ 私が、シファックスと結婚したからといって、私のことを、不実だ、とはお考えにならないで下さい、

あの人は、ずっと、私と寢床を共にしてはいなかったのですからね。我が父の、有無を言わさぬ嚴命に無理強いされて、

私は、正直に申さなければなりません、甘んじて、彼に私の手を執らせたのです。

もしも、私が、それ以上のことを、彼に許したのだとしたなら、天が、災いを私に降り下すがいい！

その私が、彼のものになれるでしょうか、それ迄は、貴方のものだったというのに？

マシニ 一体何故、貴女は、話を止められたのですかな？ 丈の低い彫像宛らに、ひっそりと、

私は、立ち尽くしているが、又、風も、敢てびゅう／＼吹きつけることはありますまい。

お話し下さい、すれば、やがて、夜が訪れましょう。誰一人、敢て溜息を吐くことも出来ずまい、拷問にかけられて、責め苛まれているにしてもね。

又、己が魂の為に、死にゆく者が唱えるべきお祈りを囁くことも出来ないうでしょうな。

ソフォ ずっと長きに互つて、恋をして、その恋心を、よりゆつくりと、燃え上がるようにさせるのです、

そんな突然の、貴方の有頂天ぶりは、執狂的過ぎて、長続きしませんわ。

マシニ その通り、お妃、もしも、我々が、長きに互つて、そんな歡びを味わっていたなら、

それは、有頂天の、激しい歡びをも消滅させてしまうでしょうな。

195

185

190

205

200

210

メナンドラー、我々を、神殿（寺院）へと連れて行ってくれ、
一点の曇りもなき、私の名誉声望にかけて、今日こそは、我々が、
婚礼を執り行なう日なのだからな。

ソフォ 貴方の名声は、如何な評判にもまして、貴方に相応しいもの
ですわ。

ぶつぐくと零してばかりいる、低俗な才子達の罵詈雑言にもまして
ね。

帝王は、たとえ、罪過を犯しても、決してそれを糾弾されはせぬ筈
ですけれど、

もしも、私が、（貴方のお気持ちに）従つたなら、私の榮譽栄光は、
汚れてしましましょう。

その夫が亡くなった正にその当日、（他の男と）結婚しような
花嫁について、世間は、一体如何な噂をたてるものでしょうかし
ら？

マシニ あのスキピオが、貴女の不倶戴天の仇敵であるからには、
如何しても（余儀なく）、そうせねばならないのです。

貴女が私のものとなつたなら、それでも尚、貴女を苦しめ悩ます者
がある、ということはありませんまいからな。

ソフォ それでは、私を死なせて、神々の許へと行かせて下さい。
マシニ 貴女は、私の妻になるよりも、むしろ、

名誉面目・自由、及び、生命をば、危険に晒すことを承諾されるの
ですか？

ソフォ だけど、貴方――
マシニ ですが、お妃、貴女が如何なことを考えて仰有れるにもせよ、

我々二人の命をば、空しくも喪わせてしまうような時間を、もう一
分たりとも、

おめおめと手を束ねて待つているなんて、貴女は、すべきではなく、

225

220

215

してはならないし、私にも出来ないのです。

ソフォ ご承知下さい、大王よ、私は、昔も、今でも、変わることな
く、同じ女なのです。

そして、世間は、この行動を、当然にも咎めだてするでしょうけれ
ど、

私は、貴方のものになります、それも、貴方が指定されるような具
合にね。

ですが、先ず、ありとあらゆる神々と、栄光にかけて、お誓い下さ
い、

ですが、先ず、ありとあらゆる神々と、栄光にかけて、お誓い下さ
い、

この私を、ローマの捕囚として、譲り渡す位なら、むしろ、
不名誉な処罰から、私を解放するという、

何か決定的な証拠品を出して下さい、という誓いをね。

マシニ 天にかけ、栄光にかけ、又、武技武功にかけ、
何かそれ以上のもの、貴女自身の、男という男を悩殺する程の魅力

にかけて、私は誓うぞ、
貴女をば、ローマ軍の手から、永劫に解放してやるのだ、

さもなくば、私自身が死ぬことによつて、貴女を自由にしてあげよ
う、とね。

ソフォ さあ、この私を、何処でもお好きな所へ連れて行つて下さい。
マシニ おお、至福の味わいよ！

婚姻神（ヒュメナイオス）が、我々の愛の誓いをば、こうして捺印
してくれるのだ。（彼女に口付けする）

神酒や、燃ゆる想い、ヒュブラの甘味（蜂蜜）が生え育っており、
彼女の唇の辺りには、えもいわれぬ、馨しい芳香が漂っているのだ。

憂いに沈む君主には、臣下と相談をさせ、

245

240

235

230

人の忠言勧告を容れて結婚させ、重々しい婚礼を執り行わせるが
い。

しかし、私は、こうして、私の両腕が抱擁しているものの方を、よ
り気に入っているのだ、

陸地や、海が、包蔵してられる、ありとあらゆる財宝、

ダイヤモンドを含んでいる岩床、黄金を蔵する小山にもましてね。

傲慢不遜なローマと、今迄の彼女の、ありとあらゆる尊大な態度に
も拘らず、

彼女は、これ迄、私の想い人だったが、これからは、私の妃となっ
て貰うぞ。(二回、退場)

250